

# 農家だより

第 1 号

平成31年 3月10日  
J A 新 津 さ つ き

秋葉区農業再生協議会

## 1等米比率95%!! 10a収量540kg

### 平成31年産米初期生育確保に向けた健苗育成対策

- ☞ 育苗期間 : 無加温育苗期間は18~20日、加温育苗は16~18日間
- ☞ 細菌性病害対策 : 種子消毒+育苗箱処理(カスミン粒剤・液剤)の体系防除  
育苗資材の消毒を徹底
- ☞ 被覆資材のかけ過ぎ注意 : 徒長苗・ヤケ苗の原因となります。
- ☞ 温度管理に注意 : 高温障害・細菌性病害を発生させない(こまめなハウスの開閉)

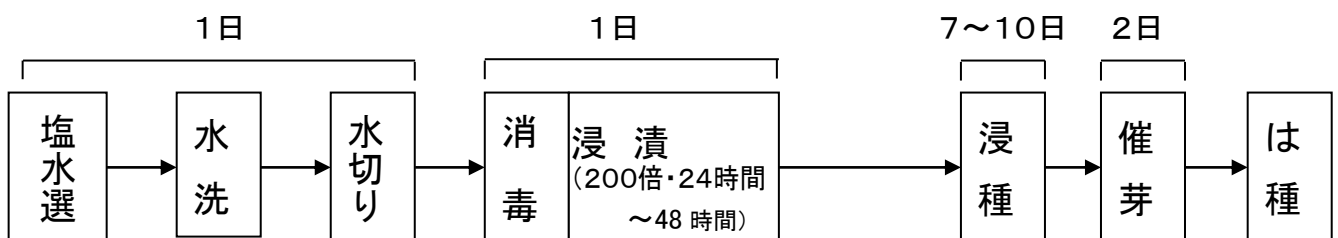
#### 1 育苗資材の消毒

細菌性病害やばか苗病の発生が増加しています。

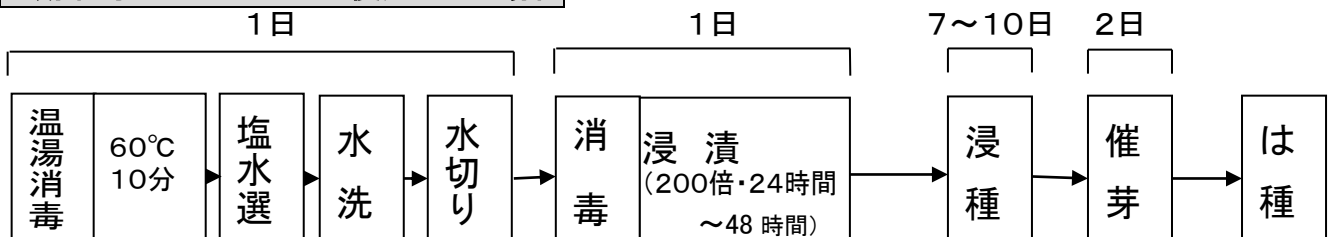
前年の育苗時にカビなどの病害が発生した場合は、育苗資材の消毒を徹底しましょう。

#### 2 播種までのながれ

##### エコホープDJ使用による場合



##### 温湯消毒+エコホープDJ使用による場合



老化苗防止のため、田植え日に合わせた適期播種計画を立てましょう。(育苗期間20日間)

### 3 塩水選

塩水選の濃度

～ 充実した種朶を選び細菌性病害を予防しましょう～

区分	比重	水10ℓ当たりの量	
		食塩の場合	硫酸の場合
うるち	1.13	1.9kg	2.5kg
もち	1.08	1.1kg	1.4kg

\* 塩水選は重要な耕種的防除です。  
\* 比重の小さな朶を取り除くことで、細菌病・ばか苗病・いもち病等の発病の危険性を減らすことができます。

※購入種子であっても塩水選は実施しましょう。  
塩水選後は十分水洗いを行いましょ。

### 4 種子消毒

～ ばか苗病・いもち病・苗立枯細菌病等を確実に予防 ～

温湯消毒の単独処理では防除効果が劣ります。

**【温湯消毒+微生物農薬の体系防除】**で細菌性病害やばか苗病の発生を防止しましょう。

薬剤名	薬量	水量	種子量	時間	農薬成分数	留意事項
エコホープDJ	100g	20ℓ	10kg	24～48時間	0	* 薬剤の効果安定のため、薬液温度は10℃以下にはしない。 * 薬液は、複数回の使用はしない。
温湯消毒	60℃の温湯 10分浸種（温度・時間を厳守しましょう） 温湯から引き揚げたら直ちに冷水で冷やしましょう。 よく脱水して、風乾して通気性の良い温度変化のない場所で保管しましょう。 エコホープDJ(微生物農薬)との体系処理で防除効果を高めましょう。 もち品種は高温耐性が弱く発芽率の低下を招くことから、行わない。					

### 5 浸種

～ 発芽を揃えるために種朶に水を十分吸わせましょう～

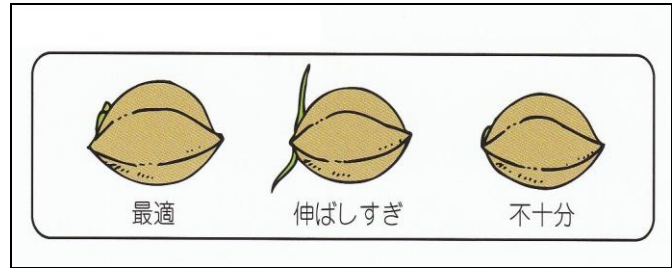
「コシヒカリ」・「こしいぶき」の平成30年産の種子の休眠は、「平年比やや深い」です。

水量	水温(目標)	積算水温	浸種日数
朶1kg/水3.5ℓ	10～15℃ 10℃未満は発芽揃いが悪くなる	100℃ (水温×日数)	7～10日間

※種子の休眠程度から、目標の水温(10～15℃)と積算水温を確実に確保する。  
※消毒効果を高めるため、水は前半の4日間替えず、その後は2日に1度程度更新する。  
※朶の吸水を均一にするため、浸種中に袋の上下を入れ替える。  
※微生物農薬で消毒した種子は、微生物菌の脱落防止のため、水の更新は静かに行う。  
水温が低い場合は、積算水温が100℃程度になるように基準より多めの浸種日数とし、  
朶殻が透きとおったアメ色の状態になるまで浸種を行う。  
※もち品種は特に低温浸種で発芽不良を起こしやすいので、10℃以上の水温で行う。  
※温湯消毒した種子は浸種中に雑菌が繁殖しやすいため、水の更新を早めに行う。

## 6 催芽

- ⊙ 設定温度は30℃を超えない(1~2日間)
- ⊙ 発芽ぞろいを良くするため発芽はハト胸程度としましょう



## 7 細菌病害対策

	使用時期	薬剤名	適用病害名
育苗箱	覆土混和	カスミン粒剤(15~20g/箱)	もみ枯れ細菌病
	培土混和	カスミン粒剤(30g/箱)	褐条病
	は種後、覆土前	カスミン液剤(4~8倍 50ml/箱)	苗立枯細菌病

## 8 播種

は種量のめやす(1箱あたり)	
乾粃	催芽粃
130~140g	160~190g

無加温育苗 18~20日間  
加温育苗 16~18日間



## 9 育苗期間の温度管理

	出芽期		緑化期	硬化期
	加温出芽	無加温出芽		
期間	2~3日	5~7日	2~4日	12~13日
温度管理	30℃	30℃	昼20~25℃ 夜15~18℃	昼15~20℃ 夜10℃以上
終了時の目安	出芽長0.5~1cm (こしいぶきは1cm)		第一葉鞘長3~3.5cm 1葉が完全展開	第一葉鞘長3.5~4cm 草丈12cm 葉数2.0~2.2

※温度計を設置し、温度管理を徹底しましょう(ハウス内 30℃以上にならないように)

## 10 育苗期間の被覆管理

資材名	出芽期	緑化期	硬化期
シルバーラブ	被覆	被覆	完全除覆(夜間の低温が予想される場合は被覆)
ミラシート(健苗シート)+シルバーポリウ	二重被覆	ミラシート(健苗シート)のみ	
ミラシート(健苗シート)のみ	被覆	被覆	

※外気の影響を受けやすく苗の成長が悪いところでは、**端苗ネット**を活用しましょう。

※被覆材が劣化すると、保温性・保湿性が低下します。定期的に交換しましょう。

## 11 育苗時期別の管理のポイント

### 1) 出芽期

ポイント ◎出芽器を使う場合(加温出芽)は、出芽長が0.5~1cm伸びたところで終了しないと、徒長苗になりやすいので注意。直射日光の強い日は換気に気をつけ、苗ヤケ防止に努める。  
新しいビニールは要注意。

水管理 ◎播種時に十分灌水する。  
◎無加温出芽の場合、播種直後でも晴天時には換気をする。  
◎覆土のもち上がりが見られたら、灌水して覆土を沈下させる。  
(灌水が多いとマット形成不良となりやすいので注意する)

### 2) 緑化期

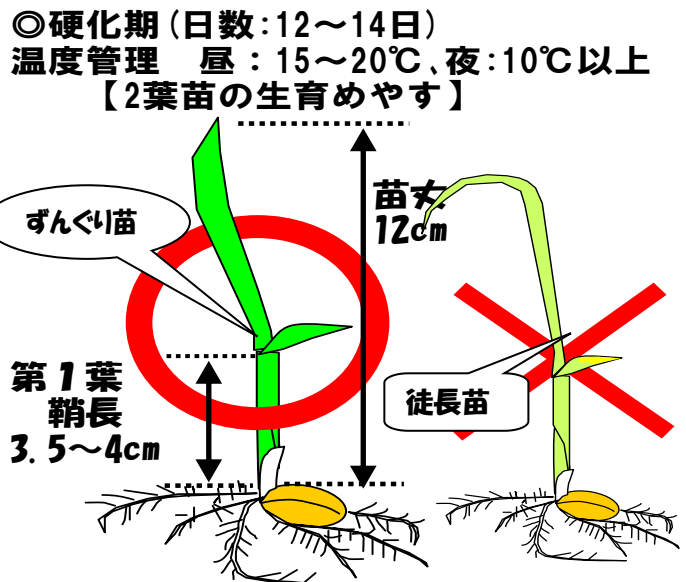
ポイント ◎出芽が終わったら灌水し、被覆資材をかけ直して緑化を始める。この時、急に強い日光や低温にさらされると、葉が緑にならず白化苗となるので注意する。  
ムレ苗防止として、温度の急変にも注意が必要。

水管理 ◎過湿に注意する。灌水は、床土が乾いていたら午前中に1回行いましょう。

### 3) 硬化期

ポイント ◎除々に外気にならすため、晴天の日はハウスを開放する。  
また、抵抗力があり充実した苗にするため、田植5~7日前から夜間もハウスを開ける。

水管理 ◎前半は1日1回午前中に十分灌水する。後半は1日1~2回十分灌水しますが、夕方はさけましょう。



◇徒長苗にしないためには？

- ①ハウス内を高温にしない → 十分に外気にあてる
- ②硬化期は被覆しない → 但し、降霜が心配される時は被覆する。
- ③かん水量は多くしない → かん水は1日1~2回

## 12 プール育苗の管理

播種・出芽	消毒、播種、出芽は慣行と同じ
水管理	緑化期終了後、葉令1~1.2葉期頃に最初は床土面まで湛水する。 以後は、水深が浅い所で箱底から1cm以下になったら草丈の半分まで湛水する。
温度管理	湛水したら昼夜ともハウスのサイドビニールは開放する。(湛水後は苗が伸びやすい) 霜注意報などで低温が予想される場合は、サイドビニールを閉める。
落水	落水は移植の2~4日前とし、育苗箱の軽量化に努める。(苗床は均平に)

※プール育苗は苗が徒長しやすいので、ハウス内温度やプールの水温の上昇に注意しましょう